

事業所理念		私達もそうであるように、子ども達の心にも様々な空模様があります。心が雨模様や曇り模様の日でも、ありのままの自分でいられる場所でありたい。「楽しい」「嬉しい」「面白い」だけでなく不安や葛藤も一緒に感じながら、成長につながっていけるように。子ども達にとっても、お家の方にとっても、心がほっとあたたまるような、晴れの日のように暖かくそっと寄り添う居場所を目指します。		
支援方針		1, 子ども達にとって次が楽しみになるような場所であることが療育の大切な入口だと考え、その中で何度も挑戦し少しずつ成長がついてくるような時間を大切にしてい 2, 日々の中で感じる様々な感情を受け止め、成長の過程でおとずれる不安や葛藤にも寄り添いながら安心して自分を出せるよう居場所にしていく 3, 1人ひとりの個性や育ちを大切にそれぞれに合ったアプローチで将来や社会参加につながる力を育んでいく		
営業時間		平日 9:30～18:30 休日・祝日 8:30～17:30	送迎実施の有無	あり
		支 援 内 容		
本人支援	健康・生活	・心身の健康状態の把握(小さな変化にも気が付けるように丁寧に見守りを行う) ・基本的な身辺自立スキルの獲得(排泄、手洗い、食事、衣類の着脱、身だしなみ等、生活に必要な基本的なスキルを身に付けていけるよう支援を行う) ・調理体験、買い物体験(調理の経験を通して、食への興味関心を持ち食事の幅を広げる関わりを行う)		
	運動・感覚	・感覚の過敏や鈍麻といった特性への対応(苦手な環境や音の中で負担を軽減するための工夫やツールを用いた対処を行い、苦手な感覚や環境に慣れていけるよう支援を行う) ・保有する感覚の総合的な活用(触覚、視覚、聴覚などの五感を刺激する遊びや活動の提案を行う)		
	認知・行動	・認知の発達と行動の習得(支援を行う際には本人に合わせて適切な方法や行動をモデルで示し、ヒントを示しながらスモールステップで成功を重ねて進めていくことで、場面に応じた適切な行動を習得できるように支援を行う) ・視覚支援(1日のスケジュールの提示や予定を事前に伝え見通しを持てるような関わりを行う他、絵カードやタイマーを使い視覚的に活動の区切りをつけていくことで自立を促し、集団の中で過ごすためのスキルを身に付けられるよう支援を行う)		
	言語コミュニケーション	・コミュニケーションの手段の選択と活用(周囲とのやりとりを円滑に行えるように日常生活や活動の中でスキルを身に付けられるよう支援を行う) ・言語の形成と活用(自分の考えていることや思っていることを相手に伝えること、相手の言葉や気持ちを聞き取ることが出来るように支援を行う) ・コミュニケーションの手段の選択肢(意思表示カードやジェスチャーなど言葉だけでなく他の方法で相手に気持ちを伝える方法も身に付けられるよう支援を行う)		
	人間関係社会性	・周囲の人との関係の構築(小集団での活動や遊びの中で人との関わり方や接し方を経験する機会を提供する) ・集団への参加(支援者との関係から、小集団での関わり、そして集団での関わりと関わる人数を増やしていく中でより多くの人とコミュニケーションをとる機会を提供する) ・マナーやルールへの理解(ルールのある遊びや1つの物事に複数人で取り組む経験、お出かけ体験を通して社会のマナーやルールを守ることの大切さに気が付けるよう支援を行う)		
家族支援		・必要に応じ面談を設定したり、日々のやり取りの中で、困りごとがある時に相談できる環境整備を行う。 ・必要時には電話連絡を行い、情報共有を丁寧にすることで家庭との連携を図る	移行支援	・療育を通して習得したことや出来るようになったことが学校や家庭でも出来るよう般化を目標とした支援を行う ・進学先や就労先と本人の様子や支援内容について情報共有を行う
地域支援・地域連携		・相談支援事業所、学校、他事業所等、各関係機関との連携を図る ・自立支援協議会への参加	職員の質の向上	・外部研修 ・内部研修 ・資格取得支援
主な行事等		・避難訓練(年2回以上) ・遠足(年1回程度) ・農園活動(月1回程度) ・駄菓子屋イベント(月1回) ・お誕生日会 ・おやつ作り ・戸外活動(お出かけ体験) ・調理体験 ・季節行事		